

地域と企業の協働による生活機能確保モデル構築事業(事例)

【真砂地区(益田市)】

地域自治組織「ときめきの里真砂」×(株)ジュンテンドー

1. 地区の概要



「食・農・福祉の小さな経済循環を目指して」

益田市の中央部に位置する真砂地区。人口減少をはじめ、中山間地域ならではの地域課題を抱えていますが、真砂の生活基盤である農業を活かした食育活動の推進や、住民を巻き込んだの里山保育など、地域資源(ヒト・モノ・コト)を最大限に活用したまちづくりの挑戦を続けています。

多様な組織・世代が繋がり、想いを共有し、失敗してもいいからまずやってみる！がモットー。

「食・農・福祉の小さな経済循環を目指して」が合い言葉です。

2. 地域課題解決に向けた取組(買い物支援/日用品等の販売)

step.1 課 題

①地域で買い物ができる場の確保

日用品等を購入できる場所が地区内にないため、地域住民や高齢者等の買い物の場の確保が課題。

step.2 体 制

②地域自治組織「ときめきの里真砂」

1989年に地区活性化協議会が設立されたことから活動を開始。2016年には地域住民全員を会員とした自治組織「ときめきの里 真砂」を設立し、地域内の関係団体と連携する体制を整備。

step.3 仕組の構築

③協働の仕組みの構築

企業と協働するにあたり、地域、企業、市町村等関係機関の役割分担を明確にするため、各種調整を行った。
以下、取り決め事項のとおり、地域との役割分担を明確にした。

step.4 実 践



④地域の拠点施設「てれえぐれえ」で日用品の販売開始

- ・地域が商品を一括注文し、企業が地域の拠点施設に配送
- ・地域は商品の陳列方法等のアドバイスを受けながら、届いた商品の陳列から販売までを行う
- ・持続可能なビジネスモデルとするために、毎月販売実績(売上等のデータを整理)、企業との連携状況については、定期確認会において良かった点や改善点を確認。

3. 成果

- ・地域住民からの注文に基づいた商品選定や、掛売による決済、月3回までの無償配送など、地域の実情に合わせて弾力的に運営。
- ・買い物支援を通じて、住民同士のコミュニケーションが促進されるとともに、地域イベントへの参加による交流も生まれた。
- ・買い物が困難な住民への商品供給、社会インフラとしての役割認識の醸成、同様のモデルケース展開への意欲など企業側の地域貢献意識の高まりと新たなビジネスモデルの可能性が確認された。